

会議録

会議の名称	第4回子ども子育て審議会計画専門部会
開催日時	令和5年9月20日（水曜日）午前9時30分から午前11時まで
開催場所	田無公民館 活動室3
出席者	委員：小野委員、井上委員、島崎委員、菅野委員、関根委員、武田委員、平野委員、中村委員 事務局：遠藤子育て支援部長、岡田子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、笹本幼児教育・保育課主幹、中村幼児教育・保育課主幹、宮崎子ども家庭支援センター長、栗林子育て支援課長補佐、菅原児童青少年課事業係長、本谷子育て支援課調整係主査、須藤子育て支援課調整係主事
議題	1 審議 (1) 子育て支援ニーズ調査について (2) 子どもの生活実態調査について (3) ヒアリング調査について 2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市子ども子育て審議会計画専門部会名簿 資料2-1 子育て支援ニーズ調査票（案）未就園児の保護者 資料2-2 子育て支援ニーズ調査票（案）小学生の保護者 資料2-3 子育て支援ニーズ調査発送封筒（案） 資料3-1 子どもの生活実態調査 小学生票（案） 資料3-2 子どもの生活実態調査 中学生票（案） 資料3-3 子どもの生活実態調査 保護者票（案） 資料3-4 子どもの生活実態調査発送封筒（案） 資料4-1 ヒアリング調査対象・質問項目について 資料4-2 他計画等における既存の調査結果概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
1 審議 ○小野部会長： 本日は、第2回子ども子育て審議会において、再度、計画専門部会で議論を深めるべきとのご指示をいただいた内容を中心に審議する。 また、第2回及び第3回計画専門部会で審議した「出産・子育てに関する意識調査」については、第2回子ども子育て審議会では会長から話があったとおり、審議会から計画専門部会に付託されていないため、本日の部会では取り扱わない。調査の実施については、次回の審議会でご判断いただくこととなっている。 (1) 子育て支援ニーズ調査について ○小野部会長： 子育て支援ニーズ調査について事務局から説明願う。	

○事務局：

資料 2-1、2-2、2-3 に沿って説明

調査票表紙は、調査の意義を伝えるため、四角囲み部分を追加した。

また、P2 お問い合わせに関して、電話とメールを予定していたが、問い合わせフォームを追加した。

各設問の変更点は、黒マーカー・白文字で表記している。

○小野部会長：

調査の目的が伝わりやすいか、回答しようと思う案内になっているか確認いただきたい。

○井上委員

調査票に関して、意見を出したところは反映されており、分からない点もない。

○平野委員

資料 2-1 P2 お問い合わせに関して、子育て支援課に問い合わせる内容と、委託事業者に問い合わせる内容の違いが分かりにくいと感じる。

○小野部会長：

調査そのものに関するお問い合わせは子育て支援課へ、調査の質問に関する問い合わせは委託事業者へなどはいかがか。

○事務局：

修正する。

○小野部会長：

資料 2-1 問54、55が分かりにくいと感じたが、皆様はいかがか。

問54は、現状満足する子どもが何人かを聞きたいのか。理想は3人だが、1人しか育てられない方や既に3人育てている方もいて、現状で満足しているケースを想定した質問か。そうであれば、問55は理想と現実の子どもの人数を異なる数字で回答した方などとした方がわかりやすいのではないか。

○井上委員

理想に対して現実が少ないという前提に立った設問に感じたので、審議会で発言した。理想より多くの子どもを持つことに満足している人もいれば、そうではない方もいると思う。

○菅野委員

2つの設問が2ページにわたっていて、分かりにくくなっていると思う。

○事務局：

理想よりも実際にいる子どもの人数が少ない家庭に、調査を取りたい趣旨がある。ページは調整する。

- 武田委員：
どちらの場合でも、子育て環境の改善につながることを聞くことができると思う。
- 中村委員
子どもが多い方の意見を聞くことで、次の拡充策に反映できると考える。
- 事務局：
問55は、何を聞きたいのか数字で直感的に分かるよう、質問を修正する。
- 平野委員：
資料2-2問13②について、調査票全体を通して自由記述が多いので、「やや不満」「不満」の方のみに選択式で回答をお願いしてはいかがか。
- 小野部会長：
前回調査ではどの程度の回答があったか。場合によっては、自由記述から選択肢を設定することも可能ではないか。
- 事務局：
前回調査では、「満足」と「まあまあ満足」で90%を超え、「やや不満」と「不満」は合わせて12人であった。また、小学校卒業まで利用したい、夏休みだけでも5～6年生の学童クラブ通所をできるようにしてほしいなどの意見があった。
- 小野部会長：
利用時間に関する要望であったようだ。前回調査と比較するため、変更なしでできればと思うがいかがか。
- 委員：
異議なし
- 井上委員：
インターネットで回答する場合は、回答状況が分かるステータスバーなどはあるか。
- 事務局：
システム上、可能か確認する。
- 小野部会長：
インターネット回答に一時保存機能はあるか。
- 事務局：
一時保存は可能である。
- 井上委員

インターネット回答途中での送信は可能か。

○事務局：

回答必須項目に回答されていれば、未回答項目があっても送信可能である。

○小野部会長：

有効回答は、設問の半分以上に回答するなど回答数に規定はあるか。

○事務局：

規定は設けず、受信した回答を集計する予定である。

○小野部会長：

それでは、意見が反映された調査票の確認を部会長に一任いただきたい。

○委員：

異議なし

(2) 子どもの生活実態調査について

○小野部会長：

子どもの生活実態調査について、事務局から説明願う。

○事務局：

資料3-1、3-2、3-3、3-4に沿って説明

第2回審議会及び審議会後に寄せられた意見等を踏まえて、設問や選択肢を精査した。子どもが調査票を読んだ時に辛い気持ちになる可能性がある、いじめや虐待に関する設問は、削除または文言修正した。また、表紙の説明文に親子一組で集計分析することを記載した。

各設問の変更点は、黒マーカー・白文字で表記している。

○小野部会長：

調査の目的が伝わりやすいか、設問が大幅に変更されたので不足がないか確認いただきたい。

○島崎委員：

この調査は、子どもはどこで実施する想定か。

○小野部会長：

全て学校で実施するのは難しいため、自宅に持ち帰る子どももいると考える。

○井上委員：

子どもの調査票には、学校に問合せないように注記があるが、保護者票にも記載した方がよいと思う。

○事務局：

修正する。

○小野部会長：

該当する子どもが2人いる場合、保護者は2度回答しなくても済む方法はないか。

○事務局：

クロス集計する際に、匿名の回答で保護者1人と子ども2人を結びつけることができないため、対応は難しい。

○中村委員

資料3-1問16選択肢dは、塾も習い事に含むかどうかや、習い事をしていない子どもいるので、回答に迷うと思う。

○平野委員

例があると良いのではないか。

○小野部会長：

「習い事などのための道具」とするのはいかがか。

また、同設問に関連して、保護者が時間の制約や金銭的な理由で習い事を制限することも想定できるため、資料3-3問20に習い事を追加した方が良いと思う。

○事務局：

2問について、修正する。

○島崎委員

資料3-1問26「学校がお休みの日」は、不登校の子どもは回答しづらいのではないか。

○井上委員

不登校の子どもにも調査に回答いただく予定か。1クラスに2～3人程度は不登校の子どもがいるようである。

○事務局：

不登校の子どもにも学校を通じて送付する予定である。そのため、「学校に行かない日・お休みの日」に修正する。

○島崎委員：

子どもの調査票に、運動に関する項目が無いように思う。運動できる場所やボール遊びができる場所が少ないという課題があり、場所があっても環境が整備されていない場合もある。また、子どもの体力低下も懸念されている。

- 井上委員：
体力に関する調査は、東京都全国の小学生体力テストで結果が出ていると思う。
- 小野部会長：
運動に関する単独の設問ではないが、資料3-1問9や問24・25に関連する選択肢があるので、カバーできるのではないか。
- 島崎委員：
それであれば、追加しなくて良いと思う。
- 小野部会長：
資料3-1問30の選択肢は人だけではないので、質問文に相談できる場所も追加いただきたい。
- 中村委員：
同設問選択肢8・9について、URLを記載しておく、この機会に相談してみようと思うのではないか。
- 平野委員：
小学生はLINEはできるのか。
- 井上委員：
保護者の許可があればLINEは使用できると思う。
- 小野部会長：
LINE相談のURLを追記いただければと思う。
- 菅野委員：
法務省のこどもの人権SOSミニレターチャイルドラインも選択肢に追加できないか。
- 小野部会長：
他にも様々な相談先があると思われるので、選択肢に「その他」を追加することでカバーできればと思うがいかがか。
- 委員：
異議なし
- 島崎委員
資料3-1問31選択肢に「聞いたことがある」を追加した方が良いと思う。
- 事務局：
他の調査票及び子育て支援ニーズ調査についても、「聞いたことがある」「内容を知

っている」に修正する。

○平野委員

資料3-1問32も内容を知っているか、相談したことがあるかなど分けて聞いた方がよいのではないかと。子どもは手紙をもらっているが、理解しているのかわからないところがある。

○菅野委員：

ほっとルームに関しては、学校へ出前授業をしているのでかなり浸透していると思う。

○小野部会長：

出前授業は小学6年生対象であり、5年生は知らない可能性がある。しかし、ほっとルームの利用状況は問30で把握できるので、問32は修正なしで良いと思う。

また、ほっとルームの紹介のようにLINE相談も紹介ができると良い。

○事務局：

LINE相談の紹介も掲載し、問30でご意見があったLINE相談の連絡先を明記する。また、LINE相談の形式に合わせて、問21下部のほっとルームへの相談を削除し、説明文に追加修正する。

○小野部会長：

資料3-1問33質問文の「要望」が小学生には難しいようであるので、「お願い」に修正いただきたい。

○事務局：

修正する。

○小野部会長：

それでは、意見が反映された調査票の確認を部会長に一任いただきたい。

○委員：

異議なし

(3) ヒアリング調査について

○小野部会長：

ヒアリング調査について、事務局から説明願う。

○事務局：

資料4-1、4-2に沿って説明

○小野部会長：

対象者への質問項目について、皆様のご意見を伺いたい。

○平野委員

スキップ教室の利用者がどれくらいかわからないが、学校にもスキップ教室にも通っていない子どももいると思う。どんぐりという団体を聞いたことがあり、そのような団体にもヒアリングしてはどうか。

○井上委員

どんぐりは多世代交流のようである。

○島崎委員：

N i c o m o ルームにも平日に子どもが集っている。

○武田委員

不登校の子どもは、集団というよりはそれぞれの居場所を求めていると思う。かつてそうだった方にヒアリングすることも実態把握につながると思う。

○菅野委員

地域の支援団体が増えているので、小・中学生に限らず支援を行う団体などにヒアリングできると良いと思う。

○井上委員

猫の足あとという団体は、学習支援をしている。いろいろな子どもの話を聞けるのではないか。

○島崎委員

ぼくるーむという、放課後に勉強したり遊んだりできる場所を提供している団体もある。

○小野部会長：

本日挙げた団体を含めて、ヒアリング対象を再度検討いただきたい。

○平野委員：

発達支援に関して、特別支援学級でもなく、医師の診断もないという子どもの保護者へのヒアリングもできる良いのではないか。

○中村委員：

グレーゾーンにいる子どもの支援も手厚くできると良いと思う。ひいらぎを案内されたが、実際は子どもが発達障害ではないというケースもあるようである。

○武田委員：

今回の調査に入れるかは検討が必要だが、配慮が必要な子どもに対して、もう少し援助があると良いと感じている。ひいらぎに通っている方は支援を受けられるが、通う前

段階の方への支援が必要であると思う。

○小野部会長：

P T A ・保護者の会にて、発達に心配や遅れのあるお子さんの支援についてヒアリングすることでカバーいただきたい。

○事務局：

ヒアリング項目を修正する。

○小野部会長：

その他にご意見があれば、9月22日（金）までに事務局にお寄せいただきたい。

2 その他

○事務局：

本日も審議いただいた、子育て支援ニーズ調査票及び子どもの生活実態調査票については、調査票等の修正を部会長にご確認いただき、その後、審議会会長に報告する形を取らせていただく。

○小野部会長：

それでは、第4回子ども子育て審議会計画専門部会を閉会する。

閉会